



## 大分の子供たち 七島イ夏休み体験学習

8月8日、大分県内の小学生、そして世話役の高校生、大学生、総勢50名が、夏休みの体験学習で国東を訪れました。

二豊製畳社長細田から梅園の里で「七島イの歴史」についての講義を受け、農業法人いとながの圃場を見学し、七島イの理解を深めた後、西武蔵公民館で七島イ民芸品作りを体験しました。

これは七島イ3本つづの三つ編みを2本繋ぎあわせ、くるくると巻いて直径10センチのコースターを作るといったもの。

1時間半という短い時間でしたが、皆一心不乱に三つ編みを編み、全員自分だけのコー



大分大学のサポーターと共に、初めて触る七島イと、三つ編みに奮闘する県内の小学生。(安岐町:西武蔵公民館にて)

スターを作り上げていました。  
大分県内でもまだまだ一般の「七島イ」の知名度は高くありません。

しかし、今回のように地元の子供たちが大分国東の復興産業である「七島イ」について、体験を通して知識と理解を深められた事は大変意義のあるイベントだったと思います。

この七島イの体験が、子供たちにとって夏休みの大切な思い出になることを期待します。

## 七島イセミナー製作好調

昨年からの地域雇用創造推進事業の一環として開かれている「七島イ工芸セミナー」

毎回たくさんの方が、三つ編みで円座やラグマット製作を練習されていますが、その中でも工芸士を養成する特別講座会員の皆さんは腕をメキメキと上達させております。



入るといふことです。合わせて表織りの人材も経験者から初心者まで、たくさん集まっています。

## 国から文化財視察団

来る9月30日、国から文化財保存会の皆様が国東に視察に訪れることが決定しました。国からも注目が集まっています。貴重な文化資源である七島イを皆さんで盛り上げて行きましょう。

# この人に聴く

シリーズ「この人に聴く」第5段は、「農業法人いとなが」について、会計の（七島イ振興会副会長でもある）富永六男さんにお話を伺いました。



**Q 「農業法人いとなが」の成り立ちについて教えて下さい**

**A** 糸永区に住む農地を持つた9名の会員により平成19年に発足しました。

当初は麦、大豆、米を生産していましたが、麦、大豆は糸永の風土に合わず、現在は「米」「飼料米」と、3年前の平成22年から栽培を始めた「七島イ」が主な作物です。

**Q 七島イ栽培を始められたきっかけは？**

**A** 今まで実際に作っていた人の技法と栽培能力があったからです。また、この時代に現金収入が得られる作物は「七島イ」しか無いと思ったからです。

**Q 七島イの刈り取りが始まっていますが、今年の出来はいかがですか？**

**A** 7月の長雨の影響で全体量は減っていますが、しかし三年目の経験が生きており、質の面では良い七島イが収穫出来ています。

組合員の「良い物を作る」という意識も向上してきています。

**Q 今後の「農業法人いとなが」における七島イ栽培の取り組みについて**

**A** とにかく良い製品を作って販売額を上げる

ことと、販路の開拓をしなければなりません。また現在2名だけの織りの職人を育成したいと考えています。

**Q 国東七島イの方向性は？**

**A** 需要を賄うような生産者の育成を期待します。新規参入者も大歓迎です。

**Q 富永さんにとって「七島イ」とは**

**A** 文化的な価値のある地場産業の振興。生産者の皆さんの生活の基盤となるものになりたいと思っています。

## 七島イの歴史



●『七島イの名称』

「七島イ」は琉球に多く自生していたことから「琉球イ」と云い、豊後地方に栽培されるをもって「豊後イ」とも云われ、また茎が三角形を呈していることにより「三角い」等ともよばれているが、これらが「七島イ」と呼称されるようになったことについては、七島イを伝来した橋下五郎左衛門の逸話にもあるように、漂着した島が七つからなる小島であったことで、この草を「七島イ」と呼ぶようになったと言われている。

また「大和草批正」によれば「薩州に小島七つあるを以つて、七島と呼ぶ。その地に至る処に自生するを以つて、遂に草名とせり」としてのされている。これは今にして言えば薩南諸島のトカラ列島、

（現在の鹿児島県大島郡十島村）の七つからなる島に七島イが自生していたことから名づけられたとの記録もあることから「七島イ」という名称が付けられたおこりであろう。

参考文献「豊後の七島イ その歴史を追って」

大分県農業技術センター 前田 哲夫

## 七島雑感

七月から八月にかけてのこの時期は、七島イ農家にとっては「地獄入り」の時期に当たり、かつては本当に寝る暇が無かったらしい。昭和四〇年ごろまでは分割機も無く、老人も子供も家族全員で早朝刈り取った七島蘭を分割し、浜などに持って行って乾燥していた。夕立に当たると色が悪くなるので、お天道様とにらめつこの日々が続いたようだ。

七島イ農家に生まれた団塊の世代は、ゴルデンウイークも無ければ、夏休みも無く、夏場は、七島イ一辺倒の生活だったと悔やむ。この世代で「家族総出の農業」は国東から消えてしまったようだ。

## 会員募集のお知らせ

途絶えつつある七島蘭の保存とともに、新しい地域産業として再生させるといふ趣旨にご賛同いただける個人ならびに企業の会員の募集をしております。

会員の方には、七島蘭の植え付け、刈り取りの農業体験や、生産者との交流会も開きたいと思っております。途絶えようとしていた七島蘭ですが、大分県や国東市の支援により再生への道筋もようやく見えてきました。

どなたでも気軽に参加できる会にしたいと思います。会員一同、一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。